

外国語科学習指導案

単元名 「Unit 5 Let's go to the zoo.」

令和6年10月 第5学年 指導者 大川 有利子

I 単元の構想

1 単元観

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語活動・外国語編では、話すことの目標として「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする」ことが挙げられている。

本単元では、単元終末の言語活動として、「町のすてきなところをたくさん知ってもらうために、お気に入りの場所への道案内や、町にあったらいいと思う施設の紹介を、自分の気持ちを含めて伝え合う」活動を行う。活動では、Where is the park? / Go straight for one block. などの表現を活用しながら、場所を尋ねたり道案内をしたりする。当町は、国内外から多くの観光客が訪れる町である。英語での道案内や町紹介は児童にとって生活に密着した課題であるので、日常生活と本題材を関連付けて学習することができる。また What do you have in your town? / We can walk dogs there. などの表現を用いて、おすすめの場所について友達と伝え合うことを通し、その施設でできることや好きな理由を伝えることで自分の思いを表現することができる。さらに What do you want in your town? / I want ... などを用いて地域にあったらいいと思う施設を考えて伝え合うことができる。これにより郷土への思いや考えを表現し、英語学習への意欲や地域社会との関わりの意識を向上させることができ、児童が必要感をもって主体的に伝え合うことができる価値ある教材である。

なお、本単元の帯活動 Sounds and Letters は、単語のはじめの音を聞き取ったり、複数の文字の名前を聞いて小文字を書き取ったりする内容で、単語の読みにつながる学習である。

2 研究との関わり

本研究は、小学校外国語科において、伝え合ったことやできたことへの喜びや達成感を感じ、自分なりに次の課題をもって学び続ける児童の育成を目指したものである。学習指導要領に示された主体的・対話的で深い学びの実現に向け、児童が課題を自分事化し、見通しをもてるように単元の導入を工夫する。また、単元の課題を解決するために何を学ぶ必要があるかを児童自身が捉えて学習タスクを考えたり、学習タスクをどのような方法や順序で学ぶのかを児童自身でデザインし、練習と活用を繰り返したりしながら資質・能力を身に付けられるように、教師が学習環境の工夫をする。

「つかむ」過程では、まず、町の案内についての教師と ALT のやりとりから、児童が課題を発見し、単元終末の活動を自分事として捉えられるようにする。さらに、単元の課題解決のために必要な英語表現や、伝える内容、工夫したいことなどについて児童の考えを集めて「学習タスク」を作っていく。次に、児童それぞれが、自分で学習に取り組む順を決め、タスクカードを個人のタスクマネージャー上に配置する。「追究する過程」では、児童それぞれが決めた順に沿って学び方を自己選択し、学習タスクに取り組めるように、教室環境、学習形態、学習材を用意する。教師は、ICT 活用や机間支援などにより児童の学習進度と理解度を見取る。またタスクマネージャーの中に中間評価（ミニパフォーマンステスト）を取り入れ、個に応じたフィードバックをし、「まとめる」過程での課題達成に向け、児童の学びを支援していく。

3 単元の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	町のすてきなところをたくさん知ってもらうために、おすすめの場所への道案内や、町に	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生の外国語活動で、簡単な校内の道案内を行っているので、基礎的な道案内の表現には慣れ親しんでいる。 ・慣れ親しんだ表現を用いて、考えや気持ちを伝え合うことはできる。
思考力、判断力、表現力等	あったらいいなおもう施設の紹介を、自分の気持ちを含めて伝え合うことができる。また、単語の始めの音を聞き取ったり、複数の文字の名前を聞いて小文字を書き取ったりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手からの質問に応じて、臨機応変に道案内をすることは難しい。 ・状況に応じて自分の考えや気持ちを伝え合うことには、課題が残る。
学びに向かう力、人間性等		<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して意欲的に学習に取り組んでいるが、相手の話が理解できないときに粘り強く聞き返したり、表現の仕方が分からなかったりしたときに工夫したりすることは難しい。

4 評価規準

知識・技能	①町にあるものをたずねたり、町の施設への道を案内したりする表現、およびその関連語句について理解している。 ②町にあるものをたずねたり、町の施設への道を案内したりする表現、およびその関連語句を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。 ③単語の始めの音を聞き取ったり、複数の文字の名前を聞いて小文字を書き取ったりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	町のすてきなところをたくさん知ってもらうために、簡単な語句や基本的な表現を用いて道案内したり、好きな施設やほしい施設でできることを、自分の気持ちを含めて伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	町のすてきなところをたくさん知ってもらうために、簡単な語句や基本的な表現を用いて道案内したり、好きな施設やほしい施設でできることを、自分の気持ちを含めて伝え合ったりしようとしている。

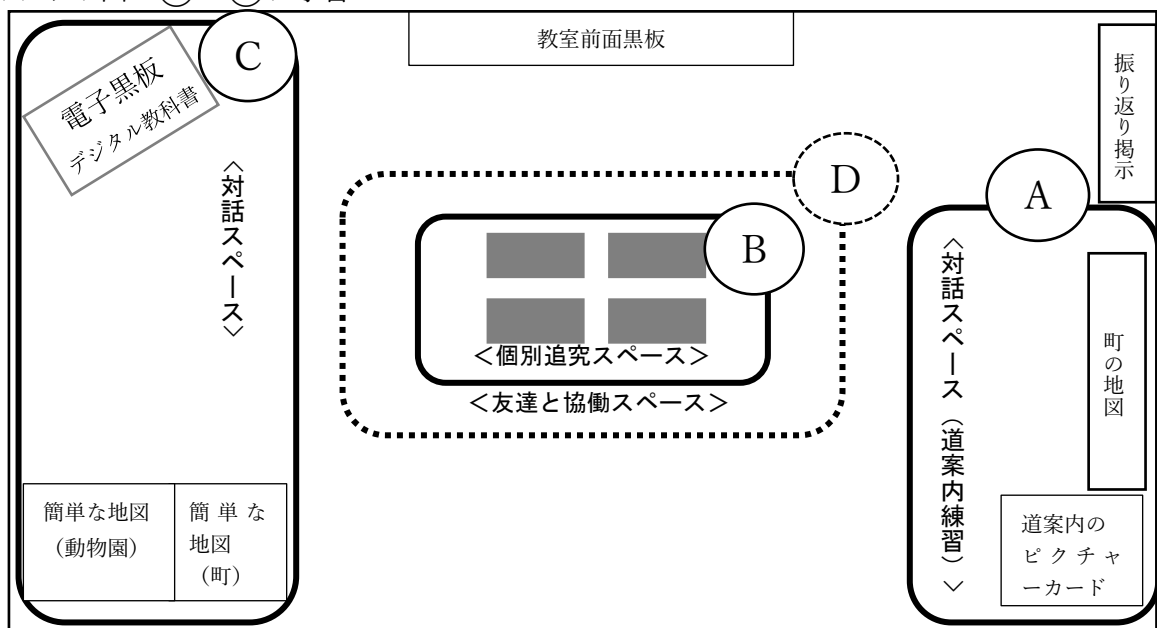
5 指導及び評価の計画（全6時間 本時は第2時）

※追究する過程に位置付けた□は、中間評価として示した課題（ミニパフォーマンステスト1～3）を解決するための資質・能力を習得する学習活動である。児童は、これらの学習活動にどの順番で取り組むかを自由に選択、決定することができ、それぞれのペースで学習を進めることができる。

過程	時間	■ねらい □学習活動	◆評価項目＜方法（観点）＞ ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価
つかむ	1	<p>■単元の学習課題をつかみ、自分が伝えたいことを考えたり、学習の見通しをもったりできるようにする。</p> <p>□教師とALTのやり取りを聴いたり、登場人物達の道案内の対話を視聴したりしながら、単元の学習課題をつかみ、本単元で身に付ける必要がある力を考え、タスクとして出し合う。（タスクカードの作成）</p>	
		<p>単元の学習課題： 町のすてきなところをたくさん知ってもらうために、お気に入りの場所やその場所への行き方、そこでできることを伝え合おう。</p>	
追究する	2	■簡単な語句や基本的な表現を用いて、行きたい場所を尋ねたり、その場所への道案内をしたりできるようにする。	○行きたい場所を尋ねたり、その場所への道案内をしたりする基本的な表現を用いてやり取りすることができる。
	3		＜観察・ミニパフォーマンス課題（知）（思）（態）＞
	4	□道案内をする際の基本的な語句や表現を聞いて復唱する。[A・B]	
	5	□道案内の表現を聞き取り、目的地がどこか分かる。[C]	
		□目的地に応じて、基本的な表現を用いながら道案内する。[C]	
		□Where is～？を用いて、ものや施設がどこにあるのか尋ねる。[B・D]	
		<p>ミニパフォーマンステスト（Check Point 1） 簡単な地図を使って、ALTと友達4人に英語で道案内をしよう。</p>	
		■町にある自分のお気に入りの場所とそこへの行き方、その場所のおすすめポイントを紹介できるようにする。	○町のすてきなところをたくさん知ってもらうために、簡単な語句や基本的な表現を用いてお気に入りの場所とそこへの行き方、その場所のおすすめポイントを紹介することができる。
		□町にあるものを紹介する会話を聞き取り、会話の内容を理解する。[B]	＜観察・ミニパフォーマンス課題（知）（思）（態）＞
		□町にあるものを伝える表現を聞き、復唱する。[B]	
		□町にある自分のお気に入りの場所を紹介する。[A]	
		□町にある自分のお気に入りの場所のできることや、自分の考えや気持ちなどを伝える。[A・D]	
		<p>ミニパフォーマンステスト（Check Point 2） 町のすてきなところを伝えるために、おすすめの場所とそこでできること、自分の考えや気持ちなどを友達4人とALTに紹介しよう。</p>	

		<p>■町をもっとすてきな町にするために、町に新たにあったらよいと思う施設等について、理由を含めて、伝えあうことができるようにする。</p> <div> <div>□町に新たに欲しいと思う施設を考える。[A・B]</div> <div>□欲しい理由を伝える（感想・様子・状態、すきなもの）。[A]</div> <div>□町に新たに欲しい施設と欲しい理由を伝え合う。[A]</div> </div> <p>ミニパフォーマンステスト（Check Point 3） もっとすてきな町になるように、ALT と友達 4 人に、町に欲しい施設とそこで行き方、欲しい理由などを伝え合おう。 ※この CP3 の課題は、追究する過程の半ばで提示する。</p>	<p>○町をもっとすてきな町にするために欲しい施設について、そこでできることや欲しいと思った理由を含めて伝え合うことができる。 <観察・ミニパフォーマンス課題（知）（思）（態）></p>
まとめ	6	<p>■お気に入りの場所や新たに欲しい施設、そこでできることや行き方を伝え合う。 □町のすてきなところをたくさん知ってもらうために、お気に入りの場所やそこへの道案内を、自分の気持ちを含めて、ALT や友達に伝え合う活動に取り組む。 □もっとすてきな町にするために、欲しい施設とその理由を ALT や友達と伝え合い、理想の町の地図を作るやりとりをする。</p>	<p>●町のすてきなところをたくさん知ってもらうために、おすすめの場所への道案内や、あったらいいなと思う施設の紹介を、自分の気持ちを含めて伝え合っている。<観察（知）（思）（態）></p>
	後日	<p>ペーパーテスト及びパフォーマンステスト</p>	<p>●My original town を作成し、相手が行きたい場所に応じて道案内をしたり、新たに欲しいと思う施設の紹介を、自分の気持ちを含めて伝え合ったりしている。 <観察（知）（思）（態）></p>

<教室レイアウト図> ①～④は学習スペース



Ⅱ 第2時の学習

- ねらい 簡単な語句や基本的な表現を用いて、行きたい場所を尋ねたり、その場所への道案内をしたりできるようにする。

2 展開

◎学習活動 ●環境の構成 [学習スペース] ☆おおむね満足できる児童の姿 ★指導上の留意点 ◆評価項目

◎帯活動 (Sounds and Letters, Let's Chant, Let's Sing) に取り組む。

- 文字や音に慣れ親しめるように Sounds and Letters に取り組む。また、児童が楽しく意欲的に本時の学習活動に取り組めるように、歌やチャンツで楽しく英語を発話する雰囲気づくりをする。
- ☆チャンツを歌うのは本時で2回目なので、児童 A は音楽の速さに合わせておおむね歌えるが、"go straight for two blocks" や "see it on your right" など速い部分を正確に歌うのが難しい。
- ★おおむねチャンツを歌えたことを称賛し、速い部分の内容の理解をジェスチャーで補いながら、一語ずつ区切って歌う。

◎単元の課題を再確認し、学習する順を自分で決めてタスクカードをタスクマネージャーに配置する。

- 学習する順を個々で考えてタスクカードを配置できるように、タスクマネージャーを児童一人一人の端末に配付する。
- ☆児童 B は教科書やデジタル辞書を参考にして、タスクカードに示された学習内容を具体的にイメージしながらカードを配置し、学習活動に取り組むことができる。
- ★タスクカードに書かれた学習内容の理解につまずいている様子があれば、具体的な言語の使用場面を伝え教科書などの学習材を見せて学習活動を想起できるように支援する。

◎個人のタスクマネージャーを使いながら、学習に取り組む。

◎道案内をする際の基本的な語句や表現を聞き取り、復唱する。

- 教科書 p.52 の Let's Watch 1 を個別に視聴し復唱できる学習場所を用意する。[B]
- 語句や表現の発音や意味を教師や友達と一緒に確かめられるように、道案内に必要な語句や表現のピクチャーカードを用意する。[A]
- ☆児童 A は友達と道案内のピクチャーカードをめくりながらクイズのようにして語句や表現を言ったり、友達の方向指示に合わせて体を動かしたりしながら、発音や意味を捉え、正しい発音で復唱する。
- ★発音に困難を感じる児童には、混同しやすい right と left の発音を動きをつけて聞かせ、音の違いに着目してデジタル辞書やデジタル教科書を使って練習するよう促す。

◎道案内の表現を聞き取り、目的地がどこか分かる。

- Let's Listen ①を教師と確かめながら進められるように、電子黒板を使って教師と対話できる学習場所を用意する。[C]
- ☆児童 B は、一回で Let's Listen ①の内容を聞き取ることが難しいが、聞き取れなかった部分を繰り返し聞くことで、答えられる。
- ★聞き取りが難しいリスニング問題は、音声に合わせて地図上で動きを示し、繰り返し聞いたり速度を変えたりして取り組むように言葉がけをする。また、Where is ~? と問いかけ、道案内することを促すことで道案内の表現を理解しているかを確認する。

◎目的地に応じて、基本的な表現を使いながら道案内する。

- 友達と場所を質問し合いながら教科書 p.52 Let's Try ①の道案内の対話練習ができるように、インフォメーションギャップのある動物園の地図と動物カードを用意する。[C]
- ☆児童 C は、友達を誘って、動物カードと動物園の地図を使った道案内にクイズ感覚で楽しみ、Turn right. ...for two blocks などの表現を使うことができるようになる。
- ★言い間違いや表現が思い浮かばないときがあるときは、そこに着目させた上で教科書 Let's Listen ①と Let's Watch ①を再度聞いて表現を確認するよう促す。

◎Where is ~? を用いて、ものや施設がどこにあるのか尋ねる。

- 教科書 p.52 Let's Listen ②の学習を個別に進められるように、端末とイヤホンを使い課題に取り組むスペースを用意する。[B]
- 意味が取りにくいところを友達に気軽に質問できるように、個別追究スペース周辺でも立ち歩いたり机を動かしたりして友達と一緒に学習できる環境をつくる。[D]
- ☆児童 D は、by と on の違いが曖昧で、友達に教えてもらって確認する。児童 E は自力解決しようと、繰り返しリスニング問題に取り組むだろう。
- ★繰り返し聞いても難しいときは、実際にものを on や by の位置に置いて見せながら確認し、デジタル辞書や教科書の絵を使って自分でも確認してからもう一度聞くように促す。

◎本時の学習でできたことと、次時にやりたいこと、学びたいことを振り返る。

- 児童同士が振り返りを共有し、これからの学習の参考にできるように、付せん紙に書いた振り返りを張る壁面掲示を用意する。
- ☆振り返りを言葉にするのが難しい児童は早く書いた児童の付せん紙を見て参考にしよう。
- ★児童同士が互いの振り返りを見て参考にできるように、掲示した振り返りのいくつかを声に出して読み、本時の学習成果を称賛したり価値付けたりする。

〈Check Point 1〉簡単な地図を使って、ALT と友達 4 人に英語で道案内をしよう。

- ◆評価項目：行きたい場所を尋ねたり、その場所への道案内をしたりする基本的な表現を用いてやり取りすることができる。〈観察・ミニパフォーマンス課題 (知) (思) (態) 〉

☆おおむね満足できる児童の表現例

Where...? Where is the station? The station... OK, OK.
Go straight...two block. Turn left...three block. Station.

<タスクマネージャー>

Unit 5 Goal 町のすてきなところをたくさん知ってもらうために、**お気に入りの場所**への道案内や、**あったらいいな**と思う施設の紹介を、**自分の気持ち**を含めて伝え合おう。

CHECKPOINT 友達4人とワデル先生に…

② 町のすてきなところを伝えるために、**おすすめの場所**とそこでできること、**自分の考えや気持ち**を紹介しよう。

町にあるもの紹介 ←p.53 Let's Watch	町にあるものを聞き取る ←p.53 Let's Listen3	おすすめの場所のできることを言う→P32 Step1	おすすめの場所を伝える←Let's Try2
-------------------------------	------------------------------------	----------------------------	------------------------

① 簡単な地図をつかって**道案内**をしよう

道案内の表現 ←p.52 Let's Watch1	道案内を聞き取る ←p.52 Let's Listen1	位置を聞き取る ←p.52 Let's Listen2	道案内をする ←p.52 Let's Try1
------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	----------------------------

<タスクカード> (例)

道案内の表現 ←p.52 Let's Watch1	道案内を聞き取る ←p.52 Let's Listen1	位置を聞き取る ←p.52 Let's Listen2	道案内をする ←p.52 Let's Try1
---------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------